

## 新型コロナウイルス感染症と考えられた当院看護師の経過について

当院の新型コロナウイルス感染症患者さんの病棟に勤務する看護師が発熱し、5月22日に抗原検査を行ったところ、陽性であったため、新型コロナウイルス感染症と診断し、保健所に届け出を行い、適正に受理されました。

当看護師は新型コロナウイルス感染症として隔離し、直ちに院内の陽性者と接触した17名の抗原検査、PCR検査を行いましたところ、全員両検査ともに陰性であることが確認されました。また、再度当看護師の抗原検査とPCR検査を行った結果、抗原検査陽性、PCR検査陰性という結果になり、さらに抗原抽出液のPCR検査でも陰性でした。

院内で、これらの結果をどのように解釈するかを検討しましたが一定の結論に至らず、外部の専門家にも問い合わせを行いました。それでも一定の結論に至りませんでした。この間も感染拡大があってはならないため、当看護師は新型コロナウイルス感染症として対応しました。その後、発症14日目にPCR検査を行い、翌日陰性を確認し、隔離を解除しました。その後、抗体検査ができるようになり、発症28日目にIgG抗体検査を行い陰性でした。抗体検査の新型コロナウイルス感染症患者さんの発症13日以降の陽性率は約97%であるにもかかわらず、当看護師は陰性であったことから、当院の結論として新型コロナウイルス感染症ではなかったと判断し、保健所にもその旨、連絡しました。

皆様にはご心配をおかけしましたが、新型コロナウイルス感染症やその診断方法にはまだ未知の部分があり、このような結果となりました。当院の職員にとっては院内感染がなかったことは医療従事者としては誇りであり、今後の励みにもなります。また、市民の皆様にはこの結果をご理解頂き、今後も安心と信頼をともにご来院頂くようお願い申し上げます。

令和2年6月25日

横須賀市立うわまち病院

管理者兼病院長 沼田 裕一